

■ ステンレスの手入れ

ステンレスの汚れやさびは、ほとんどの場合、鉄粉、塩分、その他の異物の付着に起因する“もらいさび”です。従って鉄粉などが付着し、それが湿気を含んで赤さび状に広がらないうちにできるだけ早めに除去することが、なによりも大切です。それがステンレスの美観を保ちつづける秘訣です。

しかし、ステンレスのさびは初期の段階はもちろんのこと、かなり進行した状態になってからでも、市販のステンレス用清掃薬液を使用して、入念な手入れを行えば、ほとんどの場合、もとどおりの状態に回復します。

ステンレスの汚れやさびの原因としては、次のようなケースが考えられます。

汚れやさびの原因

- (イ) 道路工事や建設工事あるいは各種車両の走行のさい飛散する土砂、ほこり、鉄粉などが付着したとき。
- (ロ) 自動車やバスなどの排気ガス中に含まれる亜硫酸ガスなどの有害成分にさらされたとき。
- (ハ) 各種工場、ごみ消却場、ビル冷暖房設備などから発生するばいじんや排気ガス中の有害成分にさらされたとき。
- (ニ) 海岸地帯の潮風に含まれる塩分が付着したとき。
- (ホ) 温泉地帯で発生する腐食性ガスにさらされたとき。
- (ヘ) 鉄粉や塩分が付着したとき。
- (ト) 指紋のあとや手あかが付着したとき。
- (チ) 油脂類、セメントなどが付着したとき。
- (リ) クリヤラッカーが老化はく離したとき。

手入れ法

- ごく軽い汚れなら、水ふきだけできれいになります。
- 手あかや指紋あとなどはスポンジまたは布に中性洗剤をつけてふきとって下さい。きれいに除去できない場合は、市販のステンレス用清掃薬液か有機溶剤（アルコール、ベンジン、アセトンなど）を使用して下さい。その後、必ず十分に水ぶきして洗剤や薬液が残らない様にして下さい。
- クリヤラッカーが老化またははく離した場合は、スポンジまたは布にテトラフィドフロフランやトリクレンなどの溶剤を付けてふき取って下さい。シンナーを用いる場合もあります。いずれもその後、必ず十分に水ぶきして溶剤が残らないようによくふき取って下さい。溶剤が残るとさびることがあります。
- 鉄粉や潮風のため点状のさびがみられる場合は、布、スポンジまたはステンレスたわしに中性洗剤をつけてふきとって下さい。きれいに除去できない場合は、炭酸カルシウム（200メッシュ以下）やみがき粉（300メッシュ）などでこすり取って下さい。市販のステンレス用清掃薬液も効果があります。ほとんどの場合、きれいになるはずですが、ただし、後に薬液が残らないように十分水ぶきして下さい。

- 黄褐色のさびが固着し、ひどいさび状態を呈している場合は、硝酸の15%の希釈液でふき取って下さい。市販のステンレス用清掃薬液も効果があります。この場合は特に入念に水ぶきして、薬液が残らないように注意して下さい。

手入れ上の注意事項

- ステンレスの汚れとさびの原因や状態は、個々のケースによってまちまちであり、それぞれの状況に応じた清掃が必要です。いきなり全面にわたる清掃に着手しないで、あらかじめ部分的に“ためしふき”して、汚れやさびの落ち具合をみて下さい。テストの結果、満足な結果が得られたら、その方法で、全面にわたる清掃を行なって下さい。
- 布、スポンジ、ヘチマ、タワシ、ブラシ、目のこまかいナイロンバットなどの清掃用具を用いる場合は、必ずステンレスの研磨目にそって平行に、しかもできるだけ平均に力を入れて動かすようにして下さい。円を描くようなやり方をすると汚れが落ちにくく、また表面の光沢のラインをくずしたり、色むらができたりして、表面が見苦しくなります。
- かなりひどい汚れの場合でも、目のあらいクレンザーやサンドペーパー、スチールウールなどを使用するのは、さけて下さい。ステンレスの表面をきずつけ、光沢のラインがくずれるばかりでなく、鉄粉が付着しやすくなり、さびの原因となることがあります。
- ステンレスの汚れを除去するために市販の清掃薬液を使用する場合は、汚れた部分だけでなく、その周辺部も手入れをして下さい。部分的な清掃だけだと色むらが残し、見苦しくなります。
- ビルのタイルや大理石、アルミなどの清掃の際、使用した清掃薬液がステンレス面に飛散した場合は、必ず水ぶきしてきれいにふきとって下さい。そのまま放置しておくことさびの原因となります。